

令和3年度 第4回新潟市食育推進会議

日 時：令和4年3月24日（木）午後2時～

会 場：新潟市ふるまち庁舎4階 402会議室

司 会	<p>ただいまより、令和3年度第4回新潟市食育推進会議を開催いたします。</p> <p>開催にあたり、新潟市農林水産部食と花の推進課長の坂井よりごあいさつ申し上げます。</p>
食と花の 推進課長	<p>皆さん、本日は年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。昨年度からご審議いただいております食育推進計画ですけれども、おかげさまでパブリックコメントと議会報告が無事に終わりました。皆様のおかげだと思っております。ありがとうございます。</p> <p>本日、最終確認という形で、最終的な計画をご審議いただきまして、完成しました計画案につきましては、来週の月曜日に村山会長から市長のほうに答申という形でご提出いただきまして、その後、公表というルールになっております。委員の皆様には、2か年にわたりまして、大変熱心にご審議いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>また、本日ですが、来年度の取組みにつきましても、今、把握できている中身につきましてご説明をさせていただきます。来年度から第4次の計画で目標に掲げました「食を楽しむ」、「食を大切に作る」、「食で健康になる」という目標に向かって具体的に施策を展開していく年になります。可能であれば、ぜひ委員の皆様から引き続き、推進会議のほうにご協力を頂ければ、大変ありがたいと考えております。</p> <p>本日も、よろしくお願いたします。</p>
司 会	<p>本日の進行を務めさせていただきます食と花の推進課の佐藤です。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より対面とリモートを取り入れた方法で開催し、人数を縮小して実施させていただきます。出席者については、座席表にお示しするとおりとなっております。猪俣委員、佐藤委員、真保委員、高杉委員、長谷川委員、馬場委員、村井委員はリモートでのご参加となります。佐藤委員と高杉委員については、若干少し遅れているということなので、後ほど参加されます。葛見委員は本日、欠席となっております。</p> <p>また、関係所属の保健所健康増進課、保健所食の安全推進課、教育委員会保健給食課、環境部循環社会推進課、食育・花育センターの皆様からもリモートにてご参加いただきます。</p> <p>続きまして、議事に入る前に2点確認をさせていただきます。1点目は、配付資料についてです。配付資料は、事前にお送りさせていただいております。まず、次第、座席表、委員名簿です。資料1「寄せられたご意見及び市の考え方」、資料2「第4次新潟市食育推進計画（最終案）」、資料3「第4次新潟市食育推進計画の策定スケジュール」、資料4「令和4年度食育推進事業（案）」、資料5「新潟市食育推進会議の概要」となっております。追加資料ですが、会場の皆様には、今回の会議で答申という形を取りますの</p>

	<p>で、答申の文案を配付させていただいております。リモートの皆様については、後で画面を共有させていただいて、私のほうから読み上げたいと思っております。不足はございませんでしょうか。議事の中でも、適宜、画面共有しながら説明させていただきます。</p> <p>2点目は、会議の録音についてです。当会議は公開となっております。後日、ホームページ等で議事録を公開するため、会議の録音をさせていただきますので、ご承知おきください。</p> <p>本日、取材の申込みはございません。傍聴席にはイオンの芳村様が傍聴されております。</p> <p>これより次第に従い議事を進行します。会場にご参加の皆様においては、発言されるときにお手元のマイクをオンにしてご利用ください。リモートの皆様はマイクを常時オフにさせていただいて、発言されるときにオンにしてください。</p> <p>ここからは村山会長より議事を進行していただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日で食育推進計画の最終案の決定ということになりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>なお、今回、初めてハイブリッド形式ということで、オンラインのみとか、会場のみだったら比較的いいのですけれども、ハイブリッドはけっこうやりにくいかと思えますけれども、ご意見につきましては、ぜひどんどんご遠慮なくお寄せいただければと思います。それでは、会議に入ってまいります。</p> <p>まず、議事（1）第4次新潟市食育推進計画について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局の春川です。よろしくお祈いします。</p> <p>資料は画面共有で皆様にも見ていただきますのでお祈いします。</p> <p>まず、第4次新潟市食育推進計画案のパブリックコメントについて、資料1を基に報告させていただきます。ご意見の募集は、令和4年1月28日から翌月の2月28日に実施いたしました。ご意見の提出者は、窓口へ持参された方が1名、郵送が1名、メールで提出された方が1名の計3名いらっしゃいまして、合わせて8件のご意見を頂きました。その結果、1項目について計画案の修正をさせていただきました。</p> <p>2ページ目のパブリックコメントに寄せられたご意見及び市の考え方というところをご覧いただきたいのですけれども、頂いたご意見と市の考え方を一覧にしてあります。こちらは市のホームページで公開しておりまして、各窓口にも設置してあります。詳細は資料のとおりですけれども、一点、No.3のところ。第2章20ページというところで、「食育マスター」の登録者数が減少した原因等を記載していただきたいというご意見がありました。資料2の計画の冊子の20ページをご覧ください。食育ボランティアと書いてあるところがあります。パブリックコメント実施時の案では、制度変更に伴い登録者数が減少しましたとしか記載しておりませんでしたので、地域における食育活動が根づいてきたことや類似事業との公平性の観点から、令和元年度に市が講師への謝礼を負担する派遣制度から紹介制度へ変更となり、人数が減少しましたというように、制度について補足をつけ加えさせていただきました。それ以外のご意見は、こちら</p>

に書いてあるとおりですけれども、おおむね当計画の趣旨に賛同していただいている内容のご意見でした。パブリックコメントの結果については以上になります。

続きまして、第4次計画最終案のご説明をさせていただきます。12月の第3回の会議で皆様から頂いたご意見や、先ほどご説明しましたパブリックコメントで市民の方から頂いたご意見を基に修正した点について、主な箇所をご説明させていただきます。まず、8ページです。第2章の第3次計画の評価の部分をご覧ください。12月下旬から1月上旬にかけて食育に関する市民アンケート調査を実施しました。その結果を反映させています。市民アンケート調査は18歳以上の市民2,000人を対象に実施しまして、回答数は904人、回答率45.2パーセントという結果でした。若い世代の方からも回答を頂けるように、今回、初めてウェブ回答も取り入れたのですけれども、内訳として郵送回答が約8割、ウェブ回答の方が約2割という結果でした。8ページ以降のグラフは12月の会議では古いグラフになっておりましたので、市民アンケート調査の結果を反映させて新しいものに差し替えて、年代別と経年推移で示してあります。

全体の評価としまして、第3回の会議から変わったところがありますので、冊子の22ページをご覧ください。第3次計画では、再掲を除いた18指標22項目について計画策定時と最新値を比較しましたところ、目標を達成できた項目が9項目、改善傾向が見られた項目は1項目であり、約45パーセントの項目に改善が見られたという結果になっております。目標が達成できなかった、悪化傾向があったところについては、22ページの下の方のDのところの4つの指標です。まず、学校給食における地場産物を使用する割合。そして、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる市民の割合の20歳代・30歳代。あとは朝食を欠食する市民の割合。これは20歳代・30歳代及び小・中学生です。あとは食育の推進に関するボランティアの数、食育マスターの数という4つについて、第3次計画策定時よりも悪化してしまっているという結果になりました。

第3次計画の成果としましては、23ページに書いてありますけれども、「生活習慣病の予防や改善のための食生活」であったり、「ゆっくりよく噛んで食べる」などの健康づくりに向けた意識に関する項目。あと「受け継がれてきた料理や作法の大切さ」、「『共食』の大切さ」など、「意識を持つ」ということについては、目標を達成できました。

「拠点施設等における食育事業の実施回数」や「農林漁業体験を経験した市民の割合」、「農業体験学習を実施している小学校の割合」など、体験機会の提供に関して目標を達成できました。

そして、「食品の安全性」や「食べ物を無駄にしない行動」の項目においても目標を達成でき、「食品」そのものに対する市民の方の意識も高まっているのではと考えられます。

そして、第3次計画の「施策展開の視点」に対する考察ですが、まず第3次計画の「施策展開の視点」として、「『関心から実践へ』体験機会のさらなる充実」というものを挙げておりました。それに対しては、いくとぴあ食花やアグリパークなどの拠点施設の整備に伴い、体験機会の提供は目標を達成できています。また、コロナ禍の影響により活動が縮小しているものの、食育マスターへの各団体からの依頼やマスター自身が主催

した活動は幅広く実施されており、食育活動が地域に根づいていると考えられます。

次に体験機会の対象やテーマの明確化です。拠点施設等において子育て世代を対象とした事業は継続的に実施していたものの、学生や働く世代など、自ら体験へ参加する機会が少ない若い世代に対する取組みをより一層充実させていくことが必要だと考えられます。

そして、次に人材の育成・確保についてです。食育マスター制度の変更により、食育マスターの登録者数が減少しました。食生活改善推進委員や食育マスターとの連携を強化するとともに、さらなる周知が必要であると考えられます。

それらを総括して、課題としては、「学校給食での地場産物使用割合」や「子どもの朝食欠食」においては第3次計画策定時よりも悪化しており、給食を生きた教材として活用し、子どもの食への関心向上や朝食摂取率向上へより一層取り組む必要があります。

これから親となっていく20～30歳代を中心として「食文化の継承」や「朝食摂取率」等が低く、食育施策が若い世代へ届いていないと考えられます。子育て世代はもとより、大学や企業等と連携し、デジタル化も取り入れた幅広い普及啓発に取り組む必要があります。

そして、「地産地消」や「食文化の継承」等の環境に配慮した行動についても改善が見られておりませんので、持続可能な社会の実現に向けて、食育の観点からさらなる推進が必要です。

続いて、第3章の第4次計画について修正を加えたところをご説明させていただきますので、27ページの「4. 施策の体系図」をご覧ください。前回の第3回会議のときは、6つの基本的施策というところで挙げていただいたのですが、そちらで皆様からご意見をいただきまして、もう一度、整理し直しまして、地域における食育の推進、家庭における食育の推進、学校、保育所等における食育の推進、環境に配慮した食育の推進、食の安全・安心に関する食育の推進の5つの項目に分けさせていただき、分類についても見直しをさせていただきました。

続いて、28ページの第4次計画の数値目標の部分です。まず「1. 食べることを『楽しい』と思う市民の割合」については、食を楽しむということが本計画の一番重要な部分でもありますので、市民アンケート調査の結果、「どちらかと言うと楽しいと思う」という、どちらかと言えばという方の回答は除きまして、純粋に食べることを楽しいと思うと回答した人の割合を指標と設定させていただいています。そちらが73.3パーセントという数字になっています。

続いて、「2. 1日に1回以上、だれかと一緒に食事をしている市民の割合」、「4. アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小・中学生の割合」そして、「6. 『食品ロス』を減らすために取り組んでいる市民の割合」「8. 小学校における『食に関する指導』実施校の割合」「10. 『主食』、『主菜』、『副菜』の言葉や意味を知っている市民の割合」ということが第4次計画で新しい指標となっておりますが、こちらの目標値としては、現状値から1割以上の増加を目指しまして、目標値をそれぞれ定めております。

そして、「3. 農林漁業体験を経験した市民の割合」は、第3次計画で目標を達成して

いるのですけれども、農業体験は食への関心につながる重要な部分ですので、継続してさらなる普及を目指して、目標値を40パーセントから50パーセントに上げて、引き続き、指標として設定させていただいています。

そして、「5の身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合」「9. 郷土料理や行事食を受け継いでいる市民の割合」「11. 主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合」「12. 朝食を欠食する市民の割合」は、第3次計画で目標達成できなかった指標ですので、第4次計画でも引き続き、指標として設定して、さらなる普及を図っていきたいと考えております。

そして、「7. 学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）」の指標です。こちらが今までは食品数ベースという算出方法だったのですけれども、これを国に合わせて金額ベースに変更しました。食品数ベースですと、例えば、米を給食に市内産のものを使った場合も1とカウントされますし、ごまなど少量しか使わないものも市内産を使っても同じように1とカウントされるという算出方法だったのですけれども、金額ベースというところで純粋に1食の給食の中で市内産のものがいくら分使っていたかという形で算出方法を変更しております。こちらは今、調査中と書かれておりますが、目標値の部分で保健給食課と調整しているところですので、こちらのような表記とさせていただいています。ただ、金額ベースでの市内産の地場産率が現状値として24.7パーセントという結果が出ております。

そして、「8. 小学校における『食に関する指導』実施校の割合」ですが、こちらも新たにつけ加えた指標になります。これまでの会議でもお話しさせていただいていましたが、子どもたちへ食の関心を持ってもらうことや、地元のものへの愛着を育むためには、単純に給食に市内産のものを使用するだけでなく、給食も生きた教材として活用しながら、子どもにいかにか伝えていくかということが食育の観点からも重要だと考えております。

1月に市内の小中学校に食に関する指導について調査をさせていただきました。その中で給食だよりや校内放送、掲示物など、どの学校でもすでに広く根づいて実施されているものは除きまして、栄養教諭や教員、生産者等が児童へ直接指導する機会があるという学校の割合を調査しました。学校によって実施している内容にばらつきがありますので、教育委員会と連携しながら、学校における食に関する指導についても、把握や支援を進めていって、100パーセントの学校でそういった指導をしているというところを目指していきたいと考えております。

最後に、10～12の食で健康になる、の項目のところですが、これまでの会議において、指標の対象を年齢で区切るのではなく、子育て世代ということで指導を設定したいとお話ししてまいりましたが、1月に市内の6つの小学校の保護者を対象に食についてのアンケート調査を実施させていただきました。合計762名の保護者の方から回答を頂きました。その結果を見てみると、「主食」、「主菜」、「副菜」の意味を知っているだとか、そろった食事を実践できている、朝食を食べているという項目において、とても高い数値が出まして、子育て中の方のほうが意識が高い、実践できているというような傾向が見られました。もともと食への意識が高いからアンケートに回答、協力してくださったの

	<p>かなという点だとか、回答者に女性が多かったというところも影響しているのではないかと考えられるのですけれども、市民アンケート調査の結果とあわせてみると、若い世代でも単身者のほうが朝食の摂取率だったり、バランスの整った食事の実践のところで低い数字の結果になりまして、指標としては、子育て世代で区切るのではなくて、単身者や夫婦のみなど、さまざまな世代構造の方を含めた 18 歳から 39 歳の若い世代ということで指標に設定していきたいと考えまして、こちらは修正させていただいたところ です。</p> <p>食育に関する市民アンケート調査や保護者を対象とした子育て世代のアンケート調査など、各種調査については今、結果もまとめている最中ですので、結果のまとめが終わり ましたら、改めて皆様にも情報共有させていただきたいと思っておりますので、よろしく お願いいたします。</p> <p>計画冊子の第 4 章以降は、前回の会議で皆様に目を通していただいたところ です。各 関係課からも施策の取組み内容について確認していただきまして、修正を加えて、最終 案というところで作成させていただきました。</p> <p>今後の流れについてですけれども、続きまして、資料 3 の計画の策定スケジュールを ご覧ください。本日の会議で、皆様から最終確認を頂きまして、来週月曜日 28 日に村 山会長とともに市長へ答申いたします。答申の後、成案となります。そして、令和 4 年 4 月に公表ということで、市のホームページ等で公表、各関係部署や学校等への送付を 考えております。また、本冊とあわせて概要版についても制作、印刷をする予定となっ ておりまして、県やほかの政令指定都市等にも送付して、周知していく予定となっ ております。</p> <p>市長答申についての文案について、事務局の佐藤から読み上げをお願いしたいと思 います。</p>
事務局	<p>画面でも共有しながら、私のほうで読み上げさせていただきたいと思 います。</p> <p>答申、本会議は、市民が健全な食生活を送ることを目指して策定した、第 3 次新潟市 食育推進計画が策定後 5 年を経過することをふまえ、これまでの取組みを総括し、取組 みの成果と課題の整理を行うとともに、食育が市民の皆様 に理解され、より一層関心 が高まり、実践へと結びつくことを目指して、第 4 次新潟市食育推進計画の策定に向け て慎重な審議を行ってきました。</p> <p>第 3 次計画では、若い世代の食への関心低下や朝食の欠食などの課題が残ったため、 引き続き対応していく必要があります。また、第 4 次計画では、「新たな日常」への対応 や SDGs への貢献を新たに取り入れており、その内容はおおむね適切なものであると 評価できることから、最終的に別添のとおり食育推進計画の案をとりまとめました。</p> <p>社会経済構造等が大きく変化していく中で、ライフスタイルや価値観・ニーズの高度 化・多様化により、食生活やこれを取り巻く環境も大きく変化し、毎日の「食」の大切 さに対する意識が希薄となり、さまざまな食の問題が顕在化しています。また、近年は 新型コロナウイルス感染症の影響も考えていかなければいけません。</p> <p>これらの問題を解決していくためには、今後も引き続き施策を展開していく中で、行 政はもとより、市民、教育関係者、保健・医療関係者、農林漁業者、食品関連事業者等</p>

	<p>が一体となって、食育を市民運動として推進していくことが必要であり、一層の事業の拡充が図られるよう期待します。</p> <p>以上のことをふまえ、この案に基づき、速やかに第4次新潟市食育推進計画を策定し、施策の実施にあたっては、あらゆる立場の市民に十分留意しながら、着実な遂行を努められるよう要望します。</p> <p>令和4年3月28日、新潟市食育推進会議会長村山伸子。以上です。</p>
事務局	<p>第4次計画の策定にあたりまして、昨年度から委員の皆様から会議や意見交換会等についてご意見をたまわりまして、感謝申し上げます。第4次計画の最終案についてご報告させていただきましたが、お気づきの点やご不明点などありましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆様にお気づきの点など、あるいはご質問でも結構です。ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>お一人ずつご意見を伺っていきたいと思っております。それでは、猪俣委員いかがでしょうか。</p>
猪俣委員	<p>計画を読ませていただきました。とても丁寧に書かれてあるなと思っております。特に保育所等における食育の推進のところに關しましては、私ども保育指針に則って食育に対しての取組みをやっているところでございます。そこの整合性も図られていて、とてもよかったなと思っております。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、新潟市医師会から佐藤委員お願いいたします。</p>
佐藤委員	<p>遅れて申し訳ありませんでした。</p> <p>内容を見せていただきましたが、非常によくまとまっていると思っております。特に子どもたちの教育の部分を記載されていますので、この辺が一番、私の関心があるところなのですが、今、アレルギーの問題でかなりアレルギーのお子さんが多様化していて、例えば、クルミアレルギーやカシューナッツとか、ナッツ類のアレルギーがすごく増えているのです。一方で、クルミは新潟の食材として非常に大事な食材なので、実はアレルギーの多いものはなるべく学校給食から外そうというような話がどんどん出ていて、それは小児アレルギー学会でも提案されているのですが、ピーナッツが今、学校給食では提供していないのですけれども、今、ピーナッツアレルギーよりもクルミアレルギーの人数のほうが多くなっています。ところが、クルミをもし学校給食から外すとなると、食育上、非常に問題だという意見も出ていまして、そういったアレルギーとの対応も、この推進計画としては問題ないのですけれども、今後、考えていかなければいけないかと思っておりました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、栄養士会のほうから長谷川委員お願いいたします。</p>
長谷川委員	<p>私は、仕事の関係で今年度、あまり出席できなかったのですが、大変よくまとめていただきました。ありがとうございました。特に数値目標の最後の食で健康になるというのは、栄養士会も大きくかかわるのでありますが、やはり朝食を欠食している世代。先ほ</p>

	<p>ど、お話がありましたように、単身者、一人暮らし、若い人、すごくやはり欠食率が、私も違うところで調査したときに 30 パーセントくらいで、これはやはり、朝、食べることがすごく大事なので、この辺も非常に栄養士会としても、こちらのほうとしても両方で進めていけたらいいなと思っております。ありがとうございました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。 それでは、続きまして、公募委員の馬場委員お願いできますでしょうか。</p>
馬場委員	<p>市民の一人として読ませていただいて、すごく分かりやすく、私でも分かるように作られているなという印象でした。子どもが小学校に通っているので、できれば小学校の先生にもこれを一人ずつ読んでいただけるといいなと思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。学校での食育もけっこう踏み込んで書いていただいているかと私も思いました。 それでは、流通と生産関係を後にしたいと思いますので、新潟医療福祉大学の宮川委員お願いできますでしょうか。</p>
宮川委員	<p>分かりやすくまとまっていて、皆さんが何回か会議を重ねられて、話し合われたことがきちんと明記されていて、事務局の皆さんのご苦勞が伝わってきました。私も読ませていただいて、私、ずっと学校現場にいたものですから、学校側の立場で見させていただいたのですけれども、学校給食を考えたとき、先ほど、小児科の先生もおっしゃいましたけれども、アレルギーですね。アナフィラキシーがとても現場としては命にかかわることなので心配なことなのです。ですので、あれがいいとか、これが悪いとか、一概には言えないのですけれども、そういうこともふまえたうえで、もう少し学校現場でも食というものを受け止めていかなければならないのだと今、改めて思っています。それにかかわって、うまく活用していったらいいかと思うのは、栄養教諭なのです。医療福祉大学では栄養教諭の養成も行っておまして、私もかかわっているのですけれども、彼女たちは非常に意欲的です。一番の関心事が残量をなくすということなのです。なぜそこにいくのかなとちょっと不思議なのですけれども、とにかくみんなによく食べてもらいたいという、そこを主に勉強しているのですけれども、もう少しそれとは別の角度から伝えていく必要があるのかと、改めて読ませていただいて感じました。 これを読ませていただいて、第4次計画への課題がクリアになってきているまとめだと思ったのです。それはとてもすばらしいまとめの証拠だと思っているのですけれども、その辺り、もう少し学校のことを私ども、考えていきたいと改めて思った次第です。それが1つです。 もう1つ、23ページの「施策展開の視点」に関する考察ところ。このとおりですが、拠点施設整備とありまして、アグリパークやいくとぴあなど、中心になるような施設があるところはいいと思うのですけれども、私住んでいるところが西蒲区なのですけれども、なかなかそこに住んでいる人たちが、どこを拠点施設としてかかわっていけばいいのかと思ったときに、各地区による差といいますか、その辺りももしかして考えていけるといいのではないかと思います。それが2つ目です。多くなってごめんなさい。4つあるのですけれども。 3つ目です。地産地消ということで、やはり地場産物を使いたいし、新潟市、新潟県</p>

	<p>で生産されたものの方が安心・安全の点でも学校では使いたいと考えています。私も学校現場に入る機会が多いので、そう思うことは多々あるのですが、今、コロナ禍、それから世界情勢が大変悪化しているということで、あらゆる品物の値上げ、農家の方のご苦勞、燃料費、そういうことを考えたときに、費用で比べるとおっしゃいましたよね。食に関する指導の割合のところですね。項目8ですね、国と比べて。そのときに経済状況が現在よりも決してよくなるとは言えないのではないかとということを考えますと、食育の計画でどこまで達成の到達度を考えていったらいいのか。また、保護者の負担とか、予算とかありますし、その辺をどのように考えていくのかと、それは疑問点として残りました。</p> <p>それから、とても細かいことでごめんなさい。4点目なのですが、答申なのですが、すっきりとよくお考えになった文書で、私も勉強になるのですが、一つだけ引っかかるのは、上から7行目の真ん中くらいから、また、第4次計画では、「新たな日常」への対応やSDGsへの貢献を新たに取り入れておりということで、同じワードが2つ。それも近くで、もちろん使っている意味は全然違いますよね。「新たな日常」というのは、1つの単語として使っておられるのだらうと、それは分かるのですが、聞き手としては、新たなということが重なると、どちらかを別の言葉にするか、あるいは省略したほうがいいのかと、私の勝手な考えなのですが、そのように感じました。長くなって申し訳ありません。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。答申については、またお考えいただくということで、地区による差や栄養教諭の活用とか、それは今後の展開の中で考えていただくということになるかと思えます。一番難しいのは3番目にご指摘いただいた値上げという中でということや、行政の予算の制約という中で、どこまで結果を求められるかという辺りだと思いますけれども、この場でということはなかなか難しいのかと思えます。何かお考えありますか。</p>
事務局	<p>答えになるかどうか分かりませんが、農業そのものがいろいろな指標を設定してやっ てはいるのですが、あまりにもいろいろな影響を受けすぎるものですから、例えば気候とか、日本全体として見たとき、西日本で何か豪雨があるとももの値段が上がってしまったりとか、コロナもそうですけれども、想定できないことが非常に多くて、農業の指標全般、やはり非常に苦勞しているところです。ただ、指標として設定していて、それが達成できなかつたら、なぜできなかつたのかということをしかり説明できれば、しかり説明して今、進んでいっているという状況ですので、この金額ベースにつきましても、社会環境の変化ですとか、いろいろなものの影響を受けながら、ではどのようになっていくのかということの説明しながら、効果検証につなげていくということになると思います。説明になっているかどうか分からないのですが、すみません。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。関連して私から。この目標の中で21ページ、今、農業のほうのお話がありましたけれども、ほかの分野の計画と整合性を取っているものというのはどの辺りなのか教えていただけますか。いくつかあると思うのですよね。</p>
事務局	<p>ほかの関連計画との整合性も考えて設定して、これは21ページだと第3次計画でしょうか。第4次のほうですね。</p>

会 長	失礼しました。28のほう。
事務局	<p>28のほうですね。4のアグリ・スタディ・プログラムに関する項目は教育ビジョンに位置づけられているものと整合性を取っています。</p> <p>ただ、学校給食の地場産物の割合も、農業構想とかのほうで設定になっておりまして、そこともあわせて形になっていくのかなというところですが、この食育推進計画が一番早いのです。今、新潟市の総合計画、令和5年度から始まるものを最終的に来年度作るのですけれども、それに合わせて農業構想も作っていますし、これが一番早いものですから、これに合わせていくことになるだろうということです。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。そういう意味でも、実効性を高める、あるいは少ない行政予算を集約していくとか、包括して行って、今、おっしゃったようにより成果を上げていくためにも、ほかとの整合性のある項目を焦点化するという一つだと思いました。ありがとうございます。</p> <p>それでは、次の委員で、REBIRTH食育研究所の村井委員をお願いします。</p>
村井委員	<p>内容的にも見せていただきましたが、すごく分かりやすくまとまっていると思います。数値目標のところも分かりやすくなっていました。私のほうでこれは今後の課題だろうと思うのは、パブリックコメントに寄せられた1番目の子どもたちに「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」に結びつかない。この食べたものが血となり肉となり思考が作られているということを理解していない人が多いということをおっしゃる方がいらっちゃって、このように食べるということの基本というものをもっと子どもたちにきちんと伝えていく。その教育の部分というものがすごく重要なだろうということを感じています。</p> <p>もう一つは、同じ教育分野の部分で、食品ロスの部分です。これを子どもたちにどう伝えていくのか。ここは具体的なことなので、その部分を今後は、もっと詰めていく必要があるのだろうと思っています。私も農業大学校などで農業の学生に食育の授業をさせていただきましたが、やはり現場にいる農家の方たちが食育というものにまだまだ結びついていない。農家としてということと同時に、食を提供する食育の担い手としての感覚や考え方みたいなものをもっと分かりやすく伝えていく。そういう工夫がこれからは必要なのだと。これを今回、推進計画を読みながら、なるほどすごく分かりやすいけれども、その部分はもっと必要なのだろうと感じました。</p>
会 長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。確かに私たちはどちらかというと消費者に目を向けておりましたが、生産者へのアプローチというご意見、ありがとうございました。</p> <p>それでは、食生活改善推進委員協議会の会長、和須津委員をお願いします。</p>
和須津委員	<p>資料はすばらしくまとめられていると思います。私たち、食生活改善推進委員は、この指標を基に現場で食育のほうを進めていくという立場になっておりますので、我々の動きやすい感じの目標がしっかりと定められてるので、動きやすいかなと。これにしたがって、食育を進めていけるのだなということが見えてきました。それと食育マスターという話も載っているのですけれども、食育マスターは確かに制度が変わってから、なかなか使っただけのところは少なくなり、報償費等の問題が出てまいりましたので、それを受ける側と頼む側のお話で、報償費を検討していただいて、食育のお話をさ</p>

	<p>せていただくという形でやっていますので、現場ではそのまま継続して、報償費がなくても何とかしてくれないかということで、ほぼ持ち出しではないですけれども、ボランティアで行かれているチームもありますし、十分、マスターとしては定着がその後の活動にもつながっているかとは思いますが、今後、皆さん食育マスターとして動く場合、若干の報償費があれば一番いいのだけれども、なくてもそれは食育につながる活動だからということで、我々も会員たちに伝えてはいます。そんな感じで、また方針がしっかり出ることによって、みんなの向く位置が決まってくるので、それに向かってまた活動もいろいろできるかと思うので、私たちは現場でこれをやるという立場なのでいいかと思えます。</p> <p>学校関係のほうは、学校のそういう家庭科の教諭の先生などにも、郷土料理のことに食推にお手伝い願えないかというお話もぼつぼつ来たりしていますので、のっぺぐりのお手伝いとか、そういったものの授業に参加させていただいたりしていますので、郷土料理や食に関することを小さい子どもたちにも、中学生や高校生や小学生など、そういったところで授業の中で食育のことが市民レベルでお話できればと思っていますので、小さいときからそうやってすり込んでいくということがいいかと思えます。そういったところで、よろしく願います。</p>
会 長	<p>教員へのアプローチというのはすごく大事ですよ。ありがとうございます。</p> <p>それでは、流通の立場ということで、イオンリテール株式会社の松井委員お願いいたします。</p>
松井委員	<p>食育計画については、私はちょうど昨年の今ごろ、着任させていただいて、参加させていただいて、本当に活発な議論の中で、よりよいものができたと思っています。</p> <p>目標値ですが、令和8年度で目標値と書いていますけれども、今年令和4年なので5か年。5か年の間で、順調に伸びていって、最後令和8年で達成といったら、それほど見栄えのいいことはないと思うのですけれども、例えば、ものによったら、来年、目標達成しました。でも、次の年から下がりましたというものが出てくると思うのですけれども、そういった部分の評価というのは、実際どうされるのかと思いました。令和8年の段階ですべて達成となるのか、その期間中に達成したものについては、それなりに評価して、逆に落ちたとき、落ちた原因は何なのかという評価というのが必要なのかと思いました。</p> <p>私のところは、どちらかというものを売る側の立場ですので、毎月19日は「食育の日」と分かっているながら、イオンのお店でこれがきちんとできているのかといったら、訴求されているのをあまり見たことがないので、これはイオンを含めて、スーパーが、こののぼりとか、こういうものを19日の日につけるだけでも、やはり市民の方に食育という言葉、「食育の日」という意味が伝わっていくのかと思いますので、できましたらこののぼりなどは、市のほうで準備していただいたりはできるのですか。</p>
事務局	<p>のぼりは当課で作っているのですけれども、イオン各店舗にのぼり旗をお渡ししてありますので、お持ちのことと思います。</p>
松井委員	<p>分かりました。一度、確認させていただいて、不足している分については、また追加させていただいてよろしいでしょうか。</p>

事務局	大丈夫です。
松井委員	<p>企業としまして、この辺につきましてできることをしっかりとやらせていただきたいと思っています。</p> <p>あとは食品ロスの部分ですが、これの使い方というのは、やはりいろいろなことを伝えるよりも、食べるものを捨てるのが食品ロスということにしっかり伝えないと、私どもそうですが、別に途中で賞味期限や消費期限が短くなった段階で、ちょっとずつ見切っていくています。でも、それを最終的に買っていただいて、期限内で消費していただければ、それは食品ロスになっていなくて、皆さん、それに協力しているのですよということなのですけれども、その辺が多分消費者の方など、まだまだ分かり切れていないのかと思っています。</p> <p>私らも生産者の人とやり取りすることがあるのですけれども、生産者の人によく言われるのが、今、店頭にものを並べていただくのに、形とか、大きさとか、いろいろなものがあって、その基準から外れると、販売できないのですよということがあって、そういうものはどうされているのですかという、肥料になったり、そういうものはロスではないと思うのですけれども、実際、捨てられたりという部分があったりするので、そういったところもやはり食品ロスとしては、今後、手を加えていかなければいけないと思っております。</p>
会長	最初にお話があったのは評価のことですね。何かコメントはありますか。
事務局	今後、この計画の進行管理で年1回はこの会議を開かせていただいて、進行管理していただくことにしているのですけれども、その中で、例えば、目標値が上回ったとか、下回った場合に、なかなか変更するということは勇気がいるというか、なかなかしづらいのですけれども、上回った場合は、また別の高い目標を設定し直すということは可能ですので、それは進行管理の中でやらせていただければと思っております。
会長	それでは、生産のほうで、農園CuRA!代表の真保委員お願いします。
真保委員	<p>農業はやはり、こちらの内容は非常に分かりやすく、これまでのことがきちんと反映されておりまして、すごくすばらしかったなと思います。数値目標に関しましても、そんなにかげ離れていない数値が目標数値として設定されておりまして、非常によろしいかと思えます。食を大切にするとするところは、やはり生産者として非常に大事に思っております。私たち生産者も、食育ということに関して、関心を持っている人がそんなにいないなと感じているのです。私自身、生産しながら食育というところに、頭の中で、また体で感じて結びついてきた部分が非常にありますので、やはり体験をすることか、そういったところを強化していきたいとは思いますが、また一度、体験したとか、そういうことではなくて、年間を通して自分が関わったものがどういう形になっているのか。そのまま食べるだけではなくて加工してとか、そういったところまで追って皆さんに見ていただけるような学校教育であったり、また大人の方がなかなか、お子さんもちろん大切なのですが、大人の親御さんに興味がないと、お子さんにも伝わらない部分もあると思っておりますので、そういったところでの関心を持っていただけるような活動であったり、そういったアナウンスであったりとか、非常に大切にしていけたらいいと思っております。</p>

会 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、JA新潟市の高杉委員、いらしていますでしょうか。</p>
高杉委員	<p>お疲れさまです。</p> <p>JAとしては、食と食育については、非常に切り離せないものでして、この食育推進計画に沿った中で、皆様方と連携した中で、今後とも取り組んでいきたいというところなんですけれども、新潟市民が健康な食生活を送れるように、農業者を含めて、私ども取り組んでいきたいということで考えておりますので、また今後ともこの食育推進計画に沿った中でやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、参加者の委員の皆様コメントいただきましたが、私も皆様と同じように今回の計画はかなり思い切って、今までどちらかというと理念的な感じの計画が多かったのですけれども、市民により分かりやすくという視点をすごく重視して、大胆に立て直した計画かと感じております。3つの柱、「食を楽しむ」は皆さん、最初から委員の一番のこうするべきという方向性で、これを一番に持ってきていただき、そして「食を大切にする」、「健康になる」ということで、まず一番の実施というか、市民への普及といいますか、実践に向けて、第一に取り組んでいくべきという方向性も示すことができたのかと思っています。ということで委員の皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>この会議をもちまして、第4次計画の最終案としまして、先ほどご案内ありましたように、月曜日に市長答申、それを経て成案となります。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ほかに何か追加のコメントがございますでしょうか。ないようでしたら、続いて、議事（2）令和4年度食育推進事業について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>皆様、いろいろなご意見を頂きまして、大変ありがとうございます。この第4次計画をもって、次年度以降の食育推進事業についてお話しさせていただきたいと思っております。資料4をご覧ください。</p> <p>第3次計画では、先ほども評価のところでお話しさせていただきましたが、「施策展開の視点」として体験機会の対象やテーマの明確化を挙げておりまして、課題の多い若い世代や親子を中心に取り組むと掲げていたものの、当課の食育推進事業におきましては、「食育の日」協力店での食育コーナーや栄養バランス診断コーナー、親子食育体験の実施、こども食育新聞の発行のところにとどまっております、計画の目標達成に沿っていない事業展開となっていたかなというところで課題が残っております。</p> <p>令和2年度から計画の策定と並行しまして、事業を少しずつ見直して見直して、各事業の展開を試みているところですが、令和4年度からの第4次計画の開始に合わせて、計画の基本方針に沿ったさらなる事業の進展と新たな取組みを視野に入れて、効果的な施策を目指していきたいと思っております。</p> <p>第4次計画です。目標として「楽しむ」と「大切にする」と「健康になる」という目標を掲げさせていただいております。次年度の食と花の推進課の食育推進事業の案になり</p>

ますが、線を引いてあるところが新たに取り組みたいと思っているところです。まず、第4次計画の普及啓発や進行管理です。食育推進会議は来年度以降も引き続き行うところです。来年度のこの計画の本冊と概要版の印刷も行いますし、計画の普及啓発というところで、ここに力を入れていきたいと思っております。計画だとか、食育の普及啓発というよりは、第4次計画の核でもあります食を楽しむということについてや、普段の生活で実践できる具体的な取組みについて、市民の方にいかに分かりやすく伝えられるかなというところを考えているところです。市民の方やモニターの方にいろいろな体験をしていただいたりとか、動画を活用したりですとか、新たに啓発していこうと考えています。

続いて、「食育の日」の普及啓発については、継続しているところですが。これまではお店から6月、10月、3月の19日周辺で、どんな食育活動をしますかというところで、各お店から出てきた取組み内容を報告してもらいまして、それを市のほうでチラシにしてPRすることが、この普及啓発の主な取組みになっておりました。それについては、もう少し取組みをPRするだけではなくて、連携してもっといろいろな幅広い取組みにつなげていけないかというところで、昨年度からいろいろ実施しているところなのですが、来年度以降としましては、飲食店と連携した子育て世代を対象とした講座や交流会の実施をできないかと考えております。店舗を会場として企画しまして、交流や食事相談の場を設けながら、食への意識を持ってもらい、子育て中の方々から、そのお子さん方にも継承してもらおうというところにつなげていきたいと思っております。

小売店の取組みとしましては、今年度、(2)の3行目、大学生、直売所と連携した、地場産食材を使用したバランス弁当の考案、販売と書いてあります。こちら画面を見ていただきたいのですが、今年度、試験的に新潟医療福祉大学の健康栄養学科の学生と直売所とで連携させていただきまして、お弁当のメニュー考案をするというところを今まさに3月16日から31日までで取り組んでいるところです。購入者へのアンケートも実施していますので、そういった結果を見ながら次年度はこの取組みをさらに拡充させていきたいと思っております。

続いて、「食品ロス」の普及啓発です。(1)のエコレシピコンテストは令和2年度と令和3年度と2年開催しています。今年度、またレシピ集を作成しておりますので、来年度はこれを活用しながら、市民の方に広く普及啓発を行っていききたいと思っております。これまでは、コンテストを開催して、それについて市民の方に普及啓発して終わりというところだったのですが、そこから課題の多い若い世代に、実際にさらに広げていきたいというところで、学生を中心とした食品ロス講座も実施できたらなというところを考えております。食品ロスやSDGs関連のゼミですとか、サークル等の学生に対して食品ロスに関する講座をまた別の料理系の学生ですとか、そういった学生を活用しながら、学生から学生に伝えていただいて、そこから自分自身の周りの人たちへどう啓発していったらいいかというところも提案してもらって、実際に普及啓発を実施してもらおうというところで、学生を中心とした食品ロスに関する取組みということも新たに組み込んでいきたいと思っております。

続いて、和食・郷土料理の普及啓発についてです。こちらも皆さん、大切に思ってい

る意識は持っているものの、なかなか実践につながらないという結果もあります。まず1つ目は料理教室です。こちらは食育・花育センターと連携した和食に関する料理教室等の開催もしたいと考えております。令和2年度にはお父さんと子どもに対して料理教室を開催させていただきまして、今年度も行う予定でしたが、コロナの影響で急遽中止となってしまいました。

続いて、(2)のSNS等を活用したレシピのPRになりますが、こちらも学校給食でも郷土料理献立というものが定期的に出されていますので、そういった学校で頑張っており上げている取組み等も、デジタル化を活用しながら、どんどん情報発信につなげていきたいと思っておりますし、行事食や郷土料理についても、簡単に作れるものですか、郷土料理、行事食の意味ですとか、そういったところも含めながら、もっと気軽に食文化についてPRしていきたいと思えます。

続きまして、「食育マスター」の活用についてです。第3次計画でボランティアの人数について、食育マスターの人数について目標達成できないという結果になりましたが、次年度以降としましては、人数を増やすということよりも、食育マスターの活用ですとか、PRにもっと力を入れて取り組んでいきたいと思えます。

やはり広く集客型で、興味のある方はご参加くださいというような形で実施しますと、意識の高い人しか参加につながらないということも考えられますので、幅広い人が集まる場にこちらから出向いていかないといけないかと考えています。例えば、小学校入学時の就学時健診等など、保護者の皆様が集まる場を活用して、そういったところに食育マスターなどを講師としてお願いして、食に関する講話等をしていただけないかというところで、食育マスターの活用ということを次年度以降、もっと積極的に行っていきたいところです。

つぎに学生と連携した取組みになります。令和2年度は、学生が考案してレシピ集を作成しまして、今年度はそのレシピを活用したInstagramの投稿キャンペーンを実施しました。学生、若い世代と連携した取組みというものは、次年度以降も拡充して、継続していきたいと思えます。学生自身が自ら料理をしたり、バランスを考えて料理を選択できるように、大学や学生食堂等と連携して、食育の普及啓発を図っていきます。

こども食育新聞は、毎年、年4回発行しているものですが、これまではこちらのほうでテーマを一方的に考えて、学校に情報提供していました。ただ、第4次計画の指標にも新たに加えましたが、学校における食に関する指導にもつながっていく部分でもあると思えますので、教育現場で実際、このこども食育新聞をこちらから送付させていただいた後に、どう活用されているか。どんなテーマだと現実的に学校で使えるのかというところを今、各学校に調査をお願いしているところです。こちらでテーマを設定して、学校に送って終わりではなくて、教育現場としてどういうニーズがあるのかということをきちんと調査したうえで、学校に合わせて作成して、指導のツールとして活用できるようにこども食育新聞の発行にもつなげていきたいと思えます。

SNSを活用した情報発信は、継続して次年度以降も行うものになります。今年度、クックパッド株式会社からお声がかかりまして、連携した取組みを実施した結果、フォロワーや閲覧者数の増加につながりましたので、継続していくとともに、食と花の推進

	<p>課のみではなくて、今、保健所等とも連携してレシピ発信しておりますが、食生活改善推進員のレシピですとか、学校給食の栄養教諭が考えたレシピなども内容を広げて発信をしていきたいと思います。</p> <p>最後に学校給食における取組みになります。こちらは内部のお話しですが、今年度から我々食育担当の業務にこの学校給食における地場産農産物使用促進というものが担当になりました。地場農産物の活用については、単に地場産率を上げることだけではなくて、食育の観点も含めて取り組んでいきたいと考えております。今年度、栄養教諭ですとか、生産者、流通関係者、行政等で60人程度の方が参加しまして、給食への地場農産物活用への共通認識を持つということを目的に、学校給食に関するフォーラムを2月に開催させていただきました。そこからつなげて、来年度以降は保健給食課ですとか、学校現場の栄養教諭、生産関係者等で検討グループを作って、今後の具体的な取組みについての検討を行っていききたいと思いますが、市内産農産物を使用した加工品開発ですとか、流通ルートの確認、規格外品の活用など、少しずつでも何ができるのかということ具体的に検討していきたいと考えております。</p> <p>今後、食に関する課題が多いと想定される働く世代への取組みがなかなかこれまでできていませんでしたが、施策をきちんと届けていくためには、企業や社員食堂に介入させていただき、取り組んでいかなければいけないかと考えております。健康経営に取り組んでいる企業ですとか、社員食堂を持っている企業をはじめとして、働いている人への意識変容にどうつなげていくかということに関係部署等へのヒアリングを行いながら、検討していきたいと考えております。</p> <p>次年度の食と花の推進課での食育推進事業については、まだ具体的に固まっていない部分もありますが、現時点での案をご説明させていただきました。率直なご意見ですとか、特に市民に向けた食を楽しむにつながるような普及啓発についてのご提案など、皆様からいろいろなご意見をお聞かせいただきますとありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。新しい試みを含め、多様な事業が計画されているようですが、特に食を楽しむ、そして若い世代に届けるという観点から、皆様方からご助言、ご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。どなたからでもけっこうですので。</p>
<p>食育・花育センター長</p>	<p>食育・花育センターのセンター長をしている真柄です。よろしくお願いいたします。</p> <p>(3)の計画の普及啓発についてですが、私たち、計画ができますと実際にやるということで、計画の32ページの拠点施設ということである中での○の4つ目ですが、館内の掲示物や体験コーナーを整備するとともに、視察者や来場者へ館内ガイドを実施するというので、私たちの施設では非常に多くの方がお見えになって、案内をしています。という中で、2点お話をお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>1つは、今現在の掲示物は、第3次計画に基づいたものになっています。その中では、にいがた流食生活ということ掲げながら推進しています。地産地消であったり、さまざまなみんなの健康に関するものが入っているのですが、にいがた流食生活という言葉は、第4次計画では記入されていないのです。その辺で、その言葉がせっかく生きているものを第4次にはどのように私たちは説明をしていったらいいのかということが1</p>

	<p>点目です。</p> <p>2点目は、私たちの施設では、現在、第3次計画に基づいたテーマである「えらぶ」、「つくる」、「たべる」、「育てる」というテーマで、それぞれ展示が行われて、お見えになった方に説明をしております。今度、第4次になりますと、3つに「食を楽しむ」、「食を大切に作る」、「食で健康になる」というテーマに大きく変わります。そうすると展示もこれに基づいてしておかないと、せっかくの計画をどう市民の方に啓発していくには無理が出てくる感じがします。その辺、私たちの展示も含めて、これは事務局になるのか分かりませんが、どのように啓発をしていったらいいのかにつきまして、ご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
会 長	事務局から何か考え等ございますか。
事務局	<p>いつも大変お世話になりまして、ありがとうございます。</p> <p>今までずっと情報提供させていただいておりまして、今回、確定という形になりますので、来年度以降の展示物ですとか、表現の仕方につきましては、また具体的に食育・花育センターと相談させていただければと思いますので、そのような場を設けさせていただきますので、ぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございます。</p>
会 長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、長谷川委員お願いします。</p>
長谷川委員	<p>いろいろ今、お聞かせいただいたのですが、私、和食・郷土料理の普及啓発というところに非常に興味があるというか、非常にいいことだと思うのですが、郷土料理を若い世代に伝えていくということは、いろいろな分野でも大きな問題になっていると思うのですが、今までと同じ様式で伝えるのではなく、より簡単に、より若い世代がすぐ作りやすく、そして場合によっては材料や切り方など、それは食推の皆さんにお願いすることになるのでしょうかけれども、そういったものを今まで同じ形の料理を伝えていくということは、やはり若い世代にはハードルが高いみたいなのです。ですので、それを少しカスタマイズしながらやっていくことが大事かと。</p> <p>それから、私はいろいろな仕事をしているのですが、あるところで学校栄養教諭の方が非常に今、煮干しを使った味噌汁の作り方とか、すごくいろいろなことを学校教育でやられていて、減塩などにも子どもたちがおいしい出汁を使って自然に入ってくるみたいなのがありますので、先ほどから出ております学校栄養教諭の方との連携というものもすごく大事だと思います。</p> <p>それから、もう1つは、何回か話題に出ているかと思いますが、中学生くらいまではけっこう食育をちゃんとやるのですが、高校、大学、働く世代になると途切れてしまう。例えば、牛乳を毎日飲むなどということは非常に大変かと思うのですが、せっかく教育したことをどこまでどのようにつなげていくのがより効果的につなげるかということも、もっと考えていってもいいのかなと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。それでは、よろしくお願いいたします。</p> <p>馬場委員手が挙がっております。よろしくお願いいたします。</p>
馬場委員	保護者の一人として、学校の給食や子どもに対して視線を向けていただけたことを非常にありがたく思っています。親の一人として、これを子どもにどう伝えていくかとい

	<p>うことは、特に考えていかなければいけないなとは思っています。あと、こども食育新聞は、以前、私は話したのですけれども、興味ある子どももいますので、ぜひ力を入れてやっていただけたらうれしいと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>ありがとうございます。細かいことで申し訳ないのですが、概要版を印刷されるということなのですけれども、これもまだできていないのですよね。</p>
事務局	<p>まだです。</p>
佐藤委員	<p>ぜひ検討していただきたいのですけれども、実は先日、こども政策課で新潟市の子ども条例が制定されました。非常に画期的だと思うのですが、この概要版を検討させてもらったのですけれども、どうしても文字ばかりになるのです。要するに要約文を全部載せる格好になるので、今の若い世代は、特に文字を追わないので、ほとんど動画なのです。今、若い世代に一番需要があるのが動画なのです。それでできたら、この概要版もイラストなどを活用して、一説には 13 文字以内のアピールという言葉があるので、要約を文書にするのではなくて、ワンポイントで書くような、内容は本誌を読んでもらうような格好で、まず関心と呼ぶような概要版に。概要版を見たら全部分かるのではなくて、関心と呼ぶような概要版の作成の仕方をしてもらえるといいかと思いました。</p> <p>それから、食育マスターの活用というところで、就学時健診の話が出ておりました。これは恐らく就学時健診のときに、子どもたちが健診で少し待っている間、保護者を集めて交流する時短帯を想定されていますかね。これは非常にいいと思います。実は私も、いくつかの小学校で講演しているのですけれども、教育現場ではだれに頼もうかと困っているくらいなので、ここでこういうプランを提案してもらおうと非常によろこばれると思うのですが、やれるところが限られているので、全校では無理ですから、そうすると実際に講演とか、聞いてもらえるところはいいのですけれども、そうではない人たちにも、先ほど話したような、何か動画で、ここで見られるというような印刷物を渡すような格好で、帰ったら見てもらえるようなプログラムがあると、関心のある方は見てもらえるのではないかと思いますので、就学時健診は、一番親の世代に情報が入るところなので、私らもメディアの問題とか、全部ここでアピールをしているところですから、ぜひこの機会を利用して、有効に使っていただきたいと思います。</p>
会 長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 それでは、ほかにいかがでしょうか。ご意見ございませんか。もう少しいろいろ聞いてみますか。 それでは、生産の立場ということで、真保委員お願いいたします。何かございましたら。</p>
真保委員	<p>ここでも何度か出てきていますが、アグリパークのアグリ・スタディ・プログラム等いろいろ活用して、そこに結びつけて SNS 等で発信していけばいいのかと思っております。自分たちが体験して作ったものだったり、種まきだったり、収穫したものが、その後、どういった形になっているのか。また、そこでフードロスの問題も一緒に考えることができると思いますし、こういう形で確保できるのではないかと、そういったも</p>

	<p>のを写真や動画を活用して、やはり文書だけだとなかなかずっと読むというのは難しいと思いますので、そういう方法で提案していったらいいのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。 高杉委員いかがでしょうか。何かアドバイス等ありましたらお願いします。</p>
高杉委員	<p>学校給食の関係で、食花が中心的にやられるというような話しなので、新潟市には、相当の品目がありますし、食と花の名産品の品目も相当数ありますので、年間を通じて、トマト週間だとか、何々週間だとかということで、主の農産物を学校給食に提供するような仕組みも取り入れてもらえれば、ありがたいというところで思っております。お願いします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。 最後の項目にところでございます点だと思います。私もこれはすごく興味があるのですけれども、市内でも地場産の利用率が高い学校とそうでもない学校と差があるのか。もしそうであれば、高い学校のやり方などを学ぶとか、いろいろな考え方ができるかと思いました。ありがとうございます。 それでは、松井委員お願いします。</p>
松井委員	<p>私ども、お店を持っておりますので、小売の取組みの中で、先ほど、学生と直売所と連携した弁当とございましたけれども、ああいったことをすぐできるとはなかなか言えないのですけれども、商品を取り扱っている部署とつなぎながら、できたらいいなと思いますし、もしでしたら、場所は提供できると思うので、そういう場所で、例えば学生を中心に料理教室を開催するとか、そういったことも別にできると思います。基本的には、場所を提供するのはスケジュールさえ合えばいつでもできます。ただ、ものを作って、それをお客様向けに販売するとなると、いろいろなものをクリアしていかなければいけないので、すぐにOKという形にはならないと思いますけれども、前向きに考えることは可能だと思います。 特にこの食品ロスの部分の（２）学生を中心とした食品ロスの講座。これの逆に発表会などを例えば、イオンモールのスペースで発表していただくとか、一般の市民向けに。というのは、私もやりたいなと以前から思っていて、一個、SDGsは学生のほうがよく知っているのです。学生のほうがいろいろな取組みをやれていますので、そういった部分で普通の市民の方に、実際、SDGsはこんなことだよということを多分、分かりやすく説明していただけるのが、学生の発表なのかと思っておりますので、こういったところをもし、何か発表会したいという学校や学生がおられましたら、私はできるだけ協力させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。申し出いただきました。 それでは、大学関係ということで、宮川委員お願いします。</p>
宮川委員	<p>２点あります。１点目は、情報提供なのですけれども、就学時健診は、来年小学校新１年生にあがる保護者だけではなくて、中学校でもあるのです。次年度１年生に入学する保護者に対してもありますので、先ほど、中学生がというお話しも出ていましたので、これは保護者というよりも、中学生自身にむしろ話をさせていただいたほうがいいのか。そういう機会もありますので、一つ提供いたします。</p>

	<p>それから、もう一点、先ほど、松井委員からSDGsについてお話しありましたけれども、食品ロスに関する事なのですが、食育の日を活用できればと思うのですが、今、コロナとかで人とあまり接しないように、買い物も毎日ではなくまとめて買ってとか、一人で行ってとか、そういうことをとても進められていますよね。私もそうなのです。仕事も持っておりますので、週に1回しか買い物に行けないのですけれども、そのときに例えば、乳製品などを選ぶときにテレビのCMでは、なるべく賞味期限の短いものというか、手前から取っていきましようと言われるのですけれども、毎日、買い物に行ける方は、明日賞味期限のものでも買ってこられるのですけれども、仕事を持っている若いお母さん方は、そんなに毎日、買い物に行けるわけではないと思うのです。例えば、1週間に1回しか行けない消費者にとって、どのような買い物の仕方が食品ロスにつながらない近道なのかみたいな、そういうものを売る側の専門家の方からアドバイスいただきたいと。私自身、消費者としては、そのように思いお話を聞きしていました。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、村井委員いかがでしょうか。</p>
<p>村井委員</p>	<p>本当に皆さんのおっしゃることをお聞きしながら、何回もうなずいているのですけれども、先ほどお話しがあった食育マスターの活用というところで、就学時の保護者の方にといいところは、私も小学校、あるいは中学校、それから未就園児の保護者の方に対してのご講演というものを何回かやらせていただいています。市内だけではなくて、下田とか、そういったところでも話をさせていただいたことがあるのですが、反応がやはりすごくいいのです。いわゆる学校に入る前に保護者の方も非常に不安を抱えて、学校生活をどうやって支えていこうかということを考えていらっしゃると思いますので、その中で、例えば、食について、あるいは普段の生活の中で食の気をつけることとか、それから中学校くらいになりますと、女子の場合は生理の問題も絡んできますので、そういった意味で、栄養と体づくりということをぜひ、聞きたいというようなお話しも頂いたことがあります。ですので、いわゆる関心がない人たちをひっくるめて、きちんとした情報を伝えていくというよりは、そういう機会も活用するのはとても活用するのはとても大事なことだと思います。</p> <p>それと食品ロスについてなのですけれども、実は、昨年、一昨年くらいでしょうか。新潟市の南高校の学生が、前にもお話ししたかもしれないのですが、Zoomでもって私といろいろ情報交換をしながら食品ロスの調査などをやっているようでした。実は、その彼が、先日、全国高校生のマイプロという大きいイベントで、地球賞を頂いたということで、非常に喜んでいました。やはり学校の中で自分が関心を持って食品ロスについて、クラス、あるいは同じ同級生3人から4人くらいでグループを組んで、その中でプロジェクトとして様々な調査、それからアンケートをいったことを進めていまして、そのときにアンケートの取り方ですとか、あるいはどういう質問内容にしたらいのかとか、そういったことを相談受けて、アドバイスをさせていただいたのですけれども、やはりそういう機会を食育という形で市内、あるいは関係者の方たちがサポートしていくということは、すごく大事ななと思いました。</p> <p>先ほど、松井委員がおっしゃったようにそういった関心があって、しかもきちんとや</p>

	<p>っている学生たちが新潟にもおりますので、ぜひそういった彼らに発表の場という意味では、先ほど、お話を伺っていて、すごくいいチャンスになるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。確かに大学生だけではなくて、今、高校生も調べ学習のようなことをやっていますので、対象になるかと思いました。</p> <p>それでは、猪俣委員何かございますでしょうか。</p>
猪俣委員	<p>入園してからとか、入園前の保護者が一番悩むところが、食のスタートである離乳食のところでございます。料理教室の実施というところで、和食での離乳食というところも検討していただきたいと思います。味覚や五感が育つ大切な時期でもありますので、出汁を使うことで塩分を抑えることもできますし、和食ならではの離乳食というところも考えてみていただきたいと思っております。</p> <p>また、どうしても保護者を見ていますと、朝の離乳食を食べさせる。また、帰ってからも、家族で食べるよりも先に、小さいお子さんを食べさせてやるということで、お子さんは食べさせてもらうという経験しかないものですから、家族で一緒になったり、ほかの人と一緒に食べることを楽しまれるというような経験もしていただきたいと思っております。もし、検討できるようであれば、和食での離乳食の講演会というところも検討していただきたいと思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。現場からの貴重なご意見を頂きました。</p> <p>それでは最後、和須津委員お願いできますでしょうか。</p>
和須津委員	<p>今のお話しから続いて。離乳食もさることながら、和食で離乳食も作れますし、今、食推のほうでは、高齢者の介護食用の食事の作り方なども和食でお出汁を使って減塩ということをやっていますので、介護食のノウハウで離乳食もそのまま作ることができるので、そういったノウハウは、食推は持っておりますので、そういった指導も食花センターもけっこう親子の食育教室などでさせていただいて、募集もけっこう、お客さんも来ていらっしゃると思いますので、食花センターもそうですし、あと出張でここでお呼びいただければ、その地区の食推が行って、指導することもできますので、どんどんマスターとして使っていただければと思いますし、食育マスターの先ほどの小学校、中学校もありますし、高校生、大学生で、社会に出てから自炊をしなくてはいけなくなる子どもたちにとって、お料理のあまり経験がない、高校に入ると2回くらいしか調理実習していないとかという場合が多いみたいですので、そういった子どもたちにも将来、社会に出てから一人で暮らす。社会に出てからチンしたもののだけでなく、自分で調理して食べるということにつながるためにも、自炊経験。食事を作る調理経験というものがすごく大事になってくるかと思うので、実習というものをどんどんもっと学校のほうで、そういう時間を取っていただければいいかと思うので、そういったことも施策の中で事業に取り組んでいただければ、子どもたちももっと食に関して関心を持って進んでいくことができるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。今、委員の皆様からたくさんのご意見を頂きました。私からは、かなりいろいろな事業を取り組まれるということで、特に若い世代にターゲットしているとすごくよく分かっていいなと思ったのですが、楽しむというところをどう伝</p>

	<p>えるかはけっこう難しいとされていて、その中で、最初のほうでモニター体験などをやるという、それはけっこう影響ある可能性があるのでは、楽しんでいる人を紹介するようなこともありかと思ったのと、けっこう留学生や外国の人にモニターになっていただくということも一つインパクトがあるかとは思いました。ということで、さまざまなご意見を頂きましたけれども、それを活かしていただきながら、第4次計画に沿って、成果の見える形で施策の実施を進めていただければと思います。</p> <p>それでは、続きまして、議事（3）委員の委嘱についてと議事（4）令和4年度新潟市食育推進会議について、あわせて事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局から議事（3）委員の委嘱についてと（4）の令和4年度食育推進会議についてご説明させていただきます。資料5を見ながらお話しさせていただきます。</p> <p>先日、委員の任期について、皆様にもう1期継続いただけないかというところでご相談させていただきました。皆様におかれましては、令和2年度から2年間、第4次計画の策定に携わっていただきまして、皆様のお立場から感じられる食への課題ですとか、お考えなど、幅広いご意見を頂いて、計画策定や施策検討に反映させていただいているところです。1期2年ということで、現在の任期はこの令和4年3月31日で満了となりますが、計画を策定して、委員の改選というよりは、この計画に基づきながら、どう施策へつなげて、食育の推進を図っていくかという今後の普及の部分においても策定に携わった皆様から、ぜひ継続してご審議いただきたいということで、もう1期の委嘱についてお願いさせていただきました。今現在、ウオロクの葛見委員が異動により管轄が変わるとのことで、継続が難しいというお話を頂いておりまして、後任の方についてはご検討いただいているところですが、ほかの皆様におかれましては、再任のご承諾を頂きまして、まことにありがとうございます。次年度以降も、第4次計画の進行管理や普及等について、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>資料5「新潟市食育推進会議の概要」についてです。こちら皆様に委員を務めていただく最初の説明のときにお渡しさせていただいたものになりますが、食育推進会議の役割としましては、推進計画の作成及び実施に関すること。その他、食育推進に関する重要事項を審議するということが会議の役割となっております。委員の期間としましては、令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2年間ということで、引き続きお願ひしたいと思っております。開催状況については記載のとおりですが、今年度と昨年度は計画の策定にかかりまして、年3回ずつ実施させていただきましたが、令和4年度につきましては、年1回の開催となる予定です。前年度の実績のご報告と次年度の食育推進施策についてのご審議ということをお話しいただくために、大体8月くらいで検討を考えているところです。こちら引き続き、来年度もよろしくお願ひしたいと思っております。</p>
会 長	<p>それでは、ただいまの議事（3）委員の委嘱についてと議事（4）令和4年度新潟市食育推進会議について、ご意見ございますでしょうか。特にはないようですので、次年度以降、また引き続き、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、議事（5）その他についてです。何かございますか。</p>
事務局	事務局からはありません。

<p>会 長</p>	<p>委員の皆様からその他で何かございますでしょうか。手は挙がっていないようです。それでは、本日の議事は以上となります。皆様からもご報告事項があればと思ったのですが、特にないのですか。ないようでしたら、本日の議事を終了したいと思います。事務局にお返しいたします。</p>
<p>司 会</p>	<p>村山会長、議事進行いただきまして、ありがとうございました。 これからいくつか連絡事項があるのですがけれども、その前に当課の坂井課長が今年度で当課を離れることになりましたので、ごあいさつ申し上げます。</p>
<p>食と花の推進課長</p>	<p>すみません、お時間いただきまして恐縮です。今、皆様のほうから、今度、来年度から、計画から実践になっていくわけですがけれども、さまざまなご提案を頂きまして、本当にありがたいと思っております。ありがとうございます。今度4月から江南区役所のほうに異動になりまして、一応、区長を拝命しておりますので、また、市民により近い立場で食育についても何ができるのか、現場のほうに行っているいろいろな考えたいと思います。皆様からも、また、私は立場が変わるのですがけれども、大変いろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。これからは何かいろいろな場面でお世話になることもあるかと思っておりますので、どうぞ引き続き、よろしく願いいたします。 なお、私以外のメンバーは変わりがございますので、引き続き、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、連絡事項のほうに移ります。4点ございます。 1点目は、今回の会議の報酬についてです。後日、指定口座に振り込ませていただきますので、よろしくお願いいたします。 2点目は、次回の会議についてです。議事の中でも説明があったとおり、次年度は会議が1回となります。8月ごろを予定しておりますので、また改めて日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 3点目は、委員就任に係る書類についてです。会場にお越しの皆様へは、本日書類をお渡しさせていただきました。リモートでご参加の方々には、後日、お送りさせていただきますので、よろしくお願い致します。ご記入のうえ、担当までお送りくださいますよう、お願いいたします。 4点目、駐車券についてです。会場にお越しの皆様の駐車券は受付のテーブルに処理してありますので、忘れずにお持ちください。 以上をもちまして、令和3年度第4回新潟市食育推進会議を終了いたします。お忘れ物のないようにお気をつけてお帰りください。お忙しいところ、ありがとうございました。</p>